
日付: 2007-11-30 タイトル: 第9回研究セミナー 第6研究委員会

第6研究委員会 ライフサイクル ◆「支援の源泉を求めて」現場発！ 本人の主体性の支援は、今…～私たちの現場で起きていること 法律や制度がめまぐるしく変化していく中、もっとも重要なことである「本人の主体性の支援」は置き去りにになっていないでしょうか。障害者自立支援法、発達障害者支援法が障害のある人のQOLにどのような変化をもたらすのか、それを検証できるのはまだ先かもしれません。しかし現在、様々な「現場」で悲鳴があがっているのは確かです。第6研究委員会、今回は「現場」にこだわった参加型のセミナーにしたいと思います。「幼児期」に目を向ければ、例えば「早期発見・早期介入」が強調される現代です。様々な保健・医療機関が親子に介入することになりますが、「早期発見」・診断にとどまり具体的なアドバイスが得られない、あるいは「早期介入」の内容が本人の主体性の育ちや親が自信を持てる育児につながらない場合が多々あるのではないのでしょうか。そのことがその後の本人・家族にどんなダメージを与えることになるか、「幼児期」のみに関わる支援者や専門職には先を見通すことが困難です。「学齢期」では、例えば特別支援教育という大きな変化の中に子どもたちは置かれています。確かに「就学支援計画」(就学までの計画)「個別支援計画」(就学中の計画)「個別移行計画」(卒業後に向けての計画)と、「ライフサイクル」を視野に入れた計画が進められてはいます。しかしその軸となる「子どもを見る視点」はどうでしょうか。「できる—できない」という能力評価中心を脱し、子どもの主体性・ころへ接近できているでしょうか。「成人期」では、例えば幼児期・学齢期に主体性を尊重されてこなかった場合、それが行動障害や意欲の低下として現れてくることがあります。また一般就労が続かず、その後長期間引きこもってしまうこともあります。この損なわれた主体性に対する責任、主体性の回復に向けての長期にわたる支援の必要性をどこに訴えればよいのでしょうか。今回は、セミナーに参加される第6研究委員会の会員、また会員以外の参加者の皆さんに、「スピークアウト！～今、私の現場で直面している困難」と題して、5～10分程度の発表していただきたいと思います。混沌とした現代の支援の現場ですが、だからこそ現場の生の声で問題を掘り起こし、「本人の主体性の支援」を軸に課題整理ができればと思います(当日スピークアウトしたい人を募集します。担当の荒木までご連絡ください。連絡先はwith1@parkcity.ne.jp または0422-54-5162です。)。なお、スピークアウトの課題整理としまして、午前中に鯨岡峻氏をお招きして、講演「関係障害と関係発達支援～障害のある人の主体性をはぐくむ支援」を企画しております(この講演は第3研究委員会と合同で開催します)。皆さんの参加をお待ちしております。＜スケジュール＞(午前中は第3研究委員会と合同開催となります。)
「支援の源泉を求めて」現場発！ 本人の主体性の支援は、今…～私たちの現場で起きていること 9:30 開会 全体進行 荒木 大輔(こども発達支援室ウイズ・東京/当会理事) 問題提起 ①第3研究委員会から 金沢 信一(日の出福祉園・東京/当会副会長) ②第6研究委員会から 岩崎 隆彦(淡路こども園・大阪/当会理事) 10:15 講演「関係障害と関係発達支援～障害のある人の主体性をはぐくむ支援」講師 鯨岡峻(中京大学心理学部教授) 12:00 昼食休憩 13:00 「スピークアウト！～今、私の現場で直面している困難」司会進行 伊藤 寿浩(貫井福祉園・東京/当会理事) 助言者 赤塚 光子(立教大学コミュニティ福祉学部教授/当会会長) 15:30 終了

Copyright © NPO法人全国障害者生活支援研究会 All Right Reserved